

福岡教区今年度の目標…「信仰の伝達」

小教区今年度のテーマ…「学び、伝えよう、家庭から私たちの信仰を」

学び、伝えよう、家庭から私たちの信仰を

主任司祭 遠山満

4月に福岡教区の一年間の目標「信仰の伝達」が出され、それに応えるような形で私たち笹丘教会は、「学び、伝えよう、家庭から私たちの信仰を」という年間目標を掲げました。先日の拡大信者会の中で、この目標に関する振り返りを皆さんでして頂きました。私は、その時も皆さんに分かち合いましたが、現時点で、次のような事を思っております。「この目標が出されてから、私たち、修道院の共同体も意識して取り組んできたこと。この目標が掲げられてから、私たちはこれまでも増して、しばしば議論するようになったこと。時には口論になったりすることもあること。しかし、それは無意味な議論ではなく、私たちの中にある、『神の御言葉と救いの計画に背く人間の判断基準、価値観、関心の的、思想傾向、インスピレーションの源、生活様式などに福音の力によって影響を及ぼし、それらをいわば転倒させる』（パウロ6世使徒的勧告『福音宣教』）為の議論だった事」などです。

ただ、そのような議論が起こる時、私たちはストレスに晒されます。私はそのような時、お酒を飲んだり、テレビを見たり、音楽を聴いたりしてストレスを和らげようとはしますが、最終的には祈りによらなければ乗り越えることが出来ません。イエス様だけが、私たちの感情的な傷、霊的な傷を癒すことのできるお方だからです。

ところで、先日の拡大信者会では、出席されていた皆さんへの問いかけもありました。家庭祭壇を持っていらっしゃる方？ ロザリオを携帯しておられる方？、ロザリオを子どもたちに持たせていらっしゃるご家庭？ 夕の祈りをご家族でなさっている所？ 等です。どのくらいの方が挙手されたかは、それぞれの質問で異なりました。関心のある方は、出席された皆さんに尋ねて頂ければと思います。

私は、自分の足元を見直して、福音宣教をしようとする時、祈りは欠かせないのではないかと考えております。毎日の生活の中で、ストレスがかかる時、苦しみの時、家庭のどこかに、祈りの為に避難する場所があれば幸いです。私たちが、自分の身近な所から、福音を伝える者となっていくことができますよう、お互いの為に祈って参りましょう。

神父様より挨拶

1、小教区年間のテーマ「学び、伝えよう、家庭から私たちの信仰を」について、上半期の振り返り

- ・ 6月の「おやじの会」で信仰を伝えられた側からの話をした。
- ・ 7月、教会学校錬成会で今村教会に行った。
- ・ 8月のアウグスチノ祭で、アウグスチノについてクイズ形式で学びを取り入れた。
- ・ 10月、巡礼の旅で、伝えた者、伝えられた者を肌で感じる場所へ行った。

2、家庭ではどうだったか？

- ・ 家庭祭壇がありますか？—あると祈りやすいのでは。
- ・ 親も子供達も、ロザリオを携帯しよう。
- ・ 夕方の祈りを家族で唱えているか？—食前、食後の祈りは必ず家族で唱える。
- ・ 自分だけが信者だが、テーマに従おうと、帰省した子どもに教会へ行こうと誘った。
- ・ 小教区が家庭的で助かった。
- ・ ミサに積極的に参加する。聖書と典礼（ミサのしおり）を活用する。最後のページに今週の聖書朗読の案内がある。読んでみよう。
- ・ 残っている聖書と典礼（ミサのしおり）を、離れている家族に送ってはどうか。
- ・ クリスマスカードなどを活用して伝達しよう。

3、その他

- ・ 笹丘教会のホームページに好ましくないバナーが付いている。削除を願う。
- ・ 神父様方の車庫証明のために2台分「司祭用」と表示させていただく。空いている時は、利用可。
- ・ ミサで歌われる典礼聖歌の練習。当面、ミサ前に集まって歌う。

11/7 アンナ・ヨアキム会

11/24 教区の日

11/30 クリスマス飾り付け・大掃除

12/3~6 クリスマスリース作りの呼びかけ

12/7 クリスマスミニバザー（建設資金返済が目的）

終わりの祈り



次回拡大信者会は12月14日です。

10月18日 約40名でド・ロ神父の足跡を辿りながら「伝える」
をキーワードに長崎・外海に巡礼を行いました。

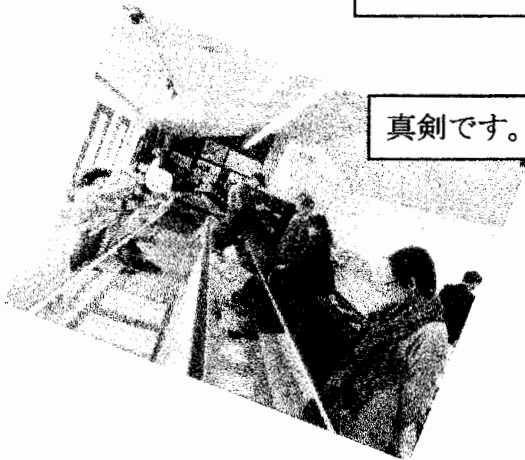
出発で～す



車内ではロザリオ



外海歴史民俗資料館



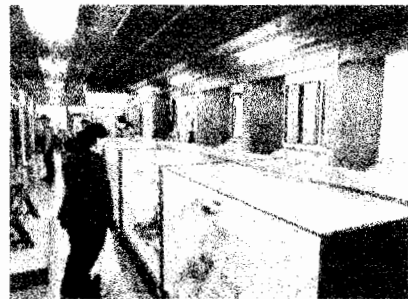
真剣です。



沈黙の碑 「人間がこんなに哀しいのに」



子どもたちはド・ロ神父
様が大好きでした。



ド・ロ神父記念館



旧出津救助院



旧出津救助院ではシ
スター辻原のお話し
を聞きました



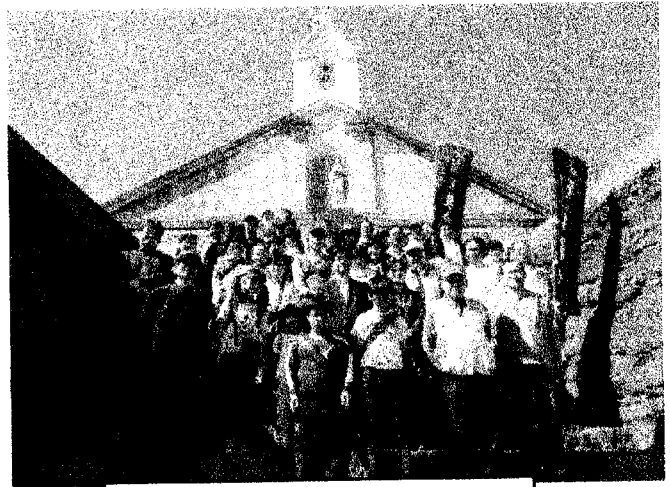
いざ 出津教会へ



出津教会・聖堂



出津教会ではみんなで祈り



山口竜太郎神父様も一緒に

黒崎教会へ



巡礼はきつい！

黒崎教会
きれいな聖堂



大山神父様のお話し



黒崎教会
マリア様がお出迎え



貧しい外海の人々に奉仕したド・ロ神父。
神父にとってイエス様の教えを伝えることは、貧しい人々と一緒に生きることでした。

聖書のことばが響きます。

『最も小さい一人にしたことは、私にしてくれたこと。』（マタイ 25. 40）



天候にも恵まれ、神父様方、シスターにも歓迎していただき、実りの多い巡礼でした。信仰を受け取った私たちは、「伝える」伝達者の自覚を持ちたいと思いました。

~~~~ 編集後記 ~~~~~

読書の秋である。

私事だが、年甲斐もなくある大学の通信課程で図書館司書の勉強を始めた。一年間の予定が、思わぬ苦戦を強いられ二年がかりとなった。夏にはスクーリングで若い学生と机を並べ共同作業も経験、「目録カード？何それ？」という世代である。対して私はコンピューターに弱く、彼らにはずいぶん助けられた。

しかし、いくつになっても勉強はしてみるものだ。資格が取れるかはさておき、新時代の図書館について知り、その変化に驚いた。スマホやパソコンで簡単に情報も入り本も読める時代だが、そんな中でも図書館は確実に進化している。大手書店を併設した武雄図書館は有名だが、それ以外にもまさに図書館は奥深く、幅広い。

つい先日もニュースで取り上げていたが、ビジネスに特化した図書館には朝早くから行列ができ、食料品スーパーと提携した図書館では主婦層が料理本を借りている。「図書館コンシェルジュ」（司書とは呼ばない）は日々新たな情報を仕入れては利用者のあらゆる質問に対応する。結果として、近年図書館の利用者数は順調に伸びているのだそうだ。限られた予算の中で、その工夫と努力は感動ものだ。

秋の夜長、読書はやはり少し重みを感じる紙の本でなくちゃ…そう思うのは私だけではないだろう。図書館へ行こう。

(S. A)